

平成30年度 百合丘高等学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・ 世界史B	学年	第2・3学年	教科書	『詳説 世界史B 改訂版』(山川出版社)
		単位数	4単位	副教材	『グローバルワイド最新世界史図表 初訂版』(第一学習社)

学習目標
世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき、地理的視点や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を幅広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民の自覚と資質を養う。

学習方法
○世界の各文化圏の流れを追いながら歴史的事項や人物像を理解して、歴史的視点や思考の能力を養います。
○文字史料や写真、映像等の史料を活用し、歴史的事項の把握とその問題点を考察します。
○学習した事項を手がかりにして、現在の世界で発生しているさまざまな事象や課題について考察します。
○地理的背景や日本史との関連に留意して世界の歴史の多様な文化や社会の特質を学習します。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	世界史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員として責任を果たそうとしている。
b	思考・判断・表現	世界史の展開から課題を見出し、世界史的立場に立って多面的・多角的に考察し文化と現代世界の特質についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえた公正な判断をしている。	
c	資料活用の技能	世界史の展開に関する諸資料を収集し有用な情報を選択して活用することを通して歴史事象を追究する方法を身に付け、考察の過程や結果を、適切に分析している。	
d	知識・理解	世界史の基本的な事柄や事象を、日本史との関連付けや世界地理の視点などの視野に立って総合的に理解し、その知識を身につけている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	第I部 古代文明の発祥	7	第1章 オリエントと地中海世界	1古代オリエント世界の興亡	○	○	○	○	a.古代国家の形成について、オリエント、ギリシア、ヘレニズム、ローマ等の諸地域におけるその過程や内容に関心を持ち、各地域の特殊性と共通性をふまえてつづ、その文明の意義を意欲的に追究しようとしている。	・定期考査 ・課題レポート や発表 ・発問評価 ・授業態度	
				2古代ギリシア世界の興亡	○	○	○	○	b.オリエント、ギリシア、ヘレニズム、ローマの文明の比較やその文明の相違を的確に考察し、キリスト教の特質やその発展の意義を歴史的視点から思考し、適切に文章にまとめている。		
				3古代ローマ世界の興亡	○	○	○	○	c.歴史地図や年表、石刻等の資料を活用して、各地域の都市や国家、統一帝国などの歴史的流れや内容を把握している。		
		7	第2章 アジア・アメリカの古代文明	1インドの古典文明	○	○	○	a.古代国家の形成について、インド、中国、東南アジアの諸地域におけるその過程や内容に関心を持ち、その文明の意義を意欲的に追究するとともに遊牧民族と中国やインドの古代王朝の関係を学習しようとしている。	・定期考査 ・課題レポート や発表 ・発問評価 ・授業態度		
				2中国の古典文明	○	○	○	○			b.インドや中国、東南アジアの文明の比較やその文明の相違を的確に考察し、仏教やヒンドゥー教の特質やその発展の意義を歴史的視点から思考し、適切に文章にまとめている。
				3東南アジアの諸文明	○	○	○	○			c.歴史地図や年表、石刻・木簡等の資料を活用して、各地域の都市や国家、統一帝国、遊牧民族の歴史的流れや内容を把握している。
	7	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	1草原の遊牧民とオアシスの定住民	○	○	○	a.東アジアにおける遊牧民族と中国との関係に関心を持ち、中国王朝の変遷を政治社会的変化に留意して意欲的に追究しようとしている。	・定期考査 ・課題レポート や発表 ・発問評価 ・授業態度			
			2北方民族の活動と中国の分裂	○	○	○	○		b.イスラームの国家体制、文化などをイスラーム教から考察し、適切に判断して文章にまとめている。		
			3東アジア文化圏の形成	○	○	○	○		c.歴史地図や文献史料を活用して、インドのイスラーム化や中世ヨーロッパの成立、中世後期のヨーロッパ社会の変容から王権強化などを的確に整理している。		
	7	第4章 イスラーム世界の形成と発展	1イスラーム世界の形成	○	○	○	a.イスラーム教の特質、イスラーム帝国の統治システムについて、関心を持って学習し、イスラーム世界の分裂と変容の過程やインドや東南アジア、アフリカのイスラーム化について、意欲にて学習しようとしている。	・定期考査 ・課題レポート や発表 ・発問評価 ・授業態度			
			2イスラーム世界の発展	○	○	○	○		b.イスラーム世界の東方への拡大と西方における変容を、内陸アジア世界やヨーロッパ世界の動向と関連づけて探究し、インドや東南アジア島諸地域のイスラーム化の基礎からみていき、文章にまとめる。		
			3イスラーム文明の発展	○	○	○	○		c.教科書に掲載されている11世紀後半のイスラーム世界の地図、マムルークの図版、インドや東南アジアへのイスラームの伝播を示す地図、アフリカのイスラーム化に関する地図や図版などを適切に活用している。		
4インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化			○	○	○	○	d.イスラーム世界の諸地域における発展に関して、基本的な知識を身につけイスラームの交易活動やイクター制の内容を理解している。イスラーム文明が古代以来の西アジア文明を基盤としてユーラシア各地の要素を加えて形成された融合文明であることを理解している。				
7			第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	1西ヨーロッパ世界の成立	○	○	○		a.フランク王国とローマ教皇の提携の意義、ノルマン人等諸民族侵入の影響、ビザンツ帝国の特色とスラヴ民族の活動、西ヨーロッパの中世都市の発展や封建社会の変容について関心を持ち、学習しようとしている。中世文化の特色とキリスト教会の役割について意欲的に学習しようとしている。	・定期考査 ・課題レポート や発表 ・発問評価 ・授業態度	
				2東ヨーロッパ世界の成立	○	○	○		○		b.地中海世界の解体をゲルマン大移動やイスラーム勢力の進出と関連づけ、封建社会の仕組みとその変容やローマ教皇権の発展を多角的にみて、ヨーロッパの拡大を、国王の中央集権化と関連づけて考察し、文章にまとめる。
	3西ヨーロッパ中世世界の変容	○		○	○	○	c.ゲルマンなど諸民族の移動図、荘園の構造などの概念図や図版・写真・資料十字軍と西ヨーロッパ勢力の拡大、中世都市と交通路といった地図を適切に活用し、教会建築や、当時の農民や都市の生活の様子を理解する図版などにより、中世ヨーロッパ社会の特色に農れることができる。				
	4西ヨーロッパの中世文化	○		○	○	○	d.ゲルマン人やノルマン人等の諸民族の移動・侵入による影響、フランク王国とローマ教皇の提携の意義など、西ヨーロッパ世界の形成と発展に関する基本的な知識やビザンツ帝国やスラヴ諸国家によって形成された、東ヨーロッパ世界の多様性に関する基本的な知識を身につけている。				

		7	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	1トルコ化とイスラーム化の進展	○	○	○	○	a.トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動に関心があり、契丹や女真と宋の政治・軍事的対立や宋代の産業や文化について関心を持って学習しようとしている。モンゴル帝国が掌握した内陸アジアのネットワークとその影響について意欲的に学習しようとしている。 b.中国周辺諸国の独自の文化形成、遊牧諸国家の支配体制の特徴、宋の統治体制とその社会や文化の特色を、東アジア文化圏の統合力の変化という視点から考察し、元朝が海城のネットワークを支配下においた意味を、社会経済的な視点から考察し、文章にまとめる。 c.中央アジアのトルコ化と東西トルキスタンの地図及び諸民族の文字や「清明上河図」など宋代の社会・文化の特色を示す写真・図版などを適切に活用している。 d.日本や高麗といった東アジア周辺諸国の政治権力の交替や、文化の確立に関する基本的な知識を身につけ、契丹や女真の二重支配体制の仕組み、宋の中央集権的統治体制とその社会経済の発展や中国的文化の特色、モンゴル帝国のユーラシアと元朝の東アジア支配の過程と、その支配の特色に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		7	第7章 アジア諸地域の繁栄	1東アジア世界の動向	○	○	○	○	a.明朝の経済的繁栄と銀経済の進展や清代の中国とチベットや日本・朝鮮といった隣接諸地域の動向について、関心をもって学習しようとしている。オスマン帝国、サファヴィー朝の領域拡大の過程や、インドのイスラーム支配とヒンドゥー教徒との対立と融和に、関心を持って学習しようとしている。 b.明朝が築き上げた冊封体制の変化を、日本や女真などの動向を中心とした東アジアの状況と関連づけて考察し、清朝と周辺諸地域との関係の変化を、東南アジアの状況やヨーロッパ勢力の活動と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c.明の領域図や周辺諸地域図、14～16世紀の東・東南アジア諸国の年表や図版、及びオスマン帝国とサファヴィー朝の領域を示す地図や、モスクの図版、ムガル帝国の領域を示す地図、インドや東南アジアの写真を適切に活用している。 d.明朝の発展による朝貢世界の確立とその動揺や、清朝の中国統治やその隣接諸地域の動向に関する基本的な知識を身につけている。オスマン帝国などのイスラーム帝国の強大な皇帝権や官僚制、異民族統治の特色やムガル帝国の統治システムに関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		7	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	1ヨーロッパ世界の拡大	○	○	○	○	a.新航路の開拓や征服と価格革命、商業革命、ルネサンスの背景と影響を意欲的に学習しようとしている。宗教改革の背景と影響、宗派による差異、ヨーロッパ諸国が主権国家として競合しつつ国際秩序を形成していった過程を、関心を持って学習しようとしている。 b.大航海時代を世界の一体化や資本主義経済発達の基盤と関連づけ、ルネサンスを多角的に考察し、宗教改革やカトリック教会の革新を、世俗の政治秩序の変化と関連づけて考察し、文章にまとめる。ウエストファリア条約の意義や東ヨーロッパの動向を、プロイセンやロシアを軸に考察し、文章にまとめる。 c.ヨーロッパ人の航路と探検図、世界地図やアステカ征服の図版、ルネサンス期の文化と美術の一覧表、新旧両教派の分布地図や「九十五カ条の論議」などの資料、図版を適切に活用している。 d.大航海時代の探検・征服事業の過程やルネサンスの意義やその具体的な文芸と美術、ルター、カルヴァンによる宗教改革の拡大、イギリスの改革、対抗宗教改革に関する基本的な知識を身につけている。15世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を確立していった過程に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		9	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	1重商主義と啓蒙専制主義	○	○	○	○	a.イギリス革命やフランスを中心とした国家間の抗争、アジア市場とアメリカの植民地をめぐるヨーロッパ諸国の抗争の過程に関心を持って学習しようとしている。科学革命と啓蒙思想を背景とする文芸について意欲的に学習しようとしている。 b.17～18世紀の西歐諸国の活発な経済活動と植民地抗争を、重商主義と関連づけて考察し、大西洋で確立した三角貿易が西欧強国にもたらした莫大な利益を、産業革命の前提条件である資本の蓄積と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c.18世紀半ばのヨーロッパ諸国の領域をあらわした地図や図版、王家の系図や17世紀半ばのヨーロッパ諸国の植民地をあらわした地図、社会風俗の図版などを適切に活用している。 d.議会政治の確立したイギリス、ルイ14世の時代のフランス、プロイセンとオーストリアの抗争等17・18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向や大西洋世界に近代ファンシステムが成立したことに関して、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		9	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1産業革命	○	○	○	○	a.産業革命の世界史的背景と技術革新の進展、共和政の大国を確立したアメリカの独立と、その憲法の内容、フランス革命の経済的、思想的背景、及びナポレオンの政策と革命の継承について、関心を持って学習しようとしている。 b.資本主義体制の確立と社会の変容について考察し、アメリカ独立革命が提起した近代市民社会の原理、フランス革命とアメリカ独立革命の対比、ナポレオン戦争による国民国家の理念の波及について関連づけて考察し、文章にまとめる。 c.産業革命期の地図や図版等の諸資料、「独立宣言」の抜粋の資料から、近代社会の原理に触れることができる。「人権宣言」やナポレオンの活動を表現した絵画や図版などを適切に活用している。 d.産業革命が最初にイギリスで起きた理由、技術革新と資本主義体制が世界市場に与えた影響等、イギリスの北米植民地の状況、独立戦争の経過、フランス革命が起こった社会構造、革命の進展過程、皇帝ナポレオン誕生の背景やその大陸支配の経過に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		9	第11章 欧米における近代国民国家の発展	1ウィーン体制の成立	○	○	○	○	a.ウィーン体制の特色とその崩壊過程、社会主義思想の成立、東方問題とそれに伴うヨーロッパ列強の対立、イタリア・ドイツの統一の背景や過程、アメリカ合衆国の西部への領土拡大が、独自の行動様式をはぐくんできたことを学習しようとしている。 b.1848年革命を社会問題と関連づけて考察し、ビスマルク外交に関して、第一次世界大戦に関連づけて考察し、イタリア・ドイツの統一と日本の明治維新との比較、アメリカ先住民や奴隷解放後の黒人への抑圧を現在の人権問題と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c.ウィーン会議後のヨーロッパ諸国の地図や絵画・図版を適切に活用している。イタリアとドイツの統一、ベルリン会議後のバルカン半島の地図や、写真・図版、ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領域拡大を示す地図や写真・図版などを適切に活用している。 d.ウィーン体制を崩壊させたヨーロッパの自由・民主主義的改革の動向、クリミア戦争とロシアの近代的改革、フランス第二帝政とその崩壊、イタリア・ドイツの統一とビスマルクによる協調外交、ラテンアメリカの独立の経過、アメリカ合衆国の西部への領土拡張、南北戦争後の発展に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		9	第12章 アジア諸地域の動揺	1オスマン帝国の動揺と西アジア地域の変容	○	○	○	○	a.ヨーロッパ勢力の干渉によるオスマン帝国等西アジア地域の変容、ムガル帝国の解体と東南アジアの植民地化、アヘン・アロー両戦争、太平天国の動乱で清朝の支配が大きく動揺し、近代化への取り組みが始まったことを関心を持って学習しようとしている。 b.西アジアでイスラーム教の伝統に回帰する動きや上からの近代化、インド大反乱の社会的背景をヨーロッパ勢力の進出から考察し、民衆の結社運動と太平天国の動乱を、アヘン戦争後の社会不安と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c.19世紀の西アジアとバルカン半島の地図や図版、インド・東南アジアの植民地化を示す図版や写真等の諸資料を適切に活用している。 ロシアの東方進出や東アジアへの動向をあらわす地図、図版や写真、諸資料を適切に活用している。 d.オスマン帝国の動揺とアラブの民族運動、イギリスによるインドの植民地化とインド社会の停滞から発生した大反乱、アヘン・アロー両戦争やロシアの進出により清帝国が動揺し、近代化への取り組みが始まったことに関して、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度

第Ⅲ部
世界の一体化と
国家間の対立

後期	第IV部 近現代の世界	9	第13章帝国主義とアジアの民族運動	1 帝国主義と列強の展開	○	○	○	○	a. 欧米列強では軍事力の強化が図られ植民地獲得や勢力圏拡大の競争をした結果、列強の二極分化が進み、第一次世界大戦につながる危機が高まっていったこと、及びアジア諸国における民族運動の形成と、このような世界情勢の中で日本が列強としてアジアへの勢力拡張に加わったことを、関心を持って学習しようとしている。 b. 経済力と軍事力を背景とする欧米列強の支配による世界の一体化が社会の変容に与えた影響を考察し、列強の植民地支配を受けたアジア諸地域で民族意識が芽生えナショナリズムの運動が展開されたことを、現在の国際状況と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c. 列強の海外植民地面積の比較図、アフリカ・アジア・太平洋地域の関連地図、同盟・協関係図や図版などの諸資料、東アジアにおける列強の勢力圏を示す地図や図版を適切に活用している。 d. 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強の国内問題、欧米列強のアジア・アフリカ・ラテンアメリカにおける植民地獲得、中国分割の危機と辛亥革命、インド、東南アジア、西アジアにおける民族運動の形成に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
				2 世界分割と列強対立	○	○	○	○		
				3 アジア諸国の改革と民族運動	○	○	○	○		
		9	第14章二つの世界大戦	1 第一次世界大戦とロシア革命	○	○	○	○	a. 第一次世界大戦勃発の経緯、ソ連邦成立に至るロシア革命の進展 戦間期の国際協調と平和への取り組みが実を結ばなかった理由、及びアジア諸民族の民族運動が大衆的な基盤を持ち、世界史の新しい潮流をつくり出したことについて、関心を持って学習しようとする。イタリア・ドイツ・日本のファシズムの特徴と勢力拡張の過程、第二次世界大戦の開戦に至る経過、戦争の拡大と戦場の広域化、核兵器などの大量破壊兵器の被害などを、関心を持って学習しようとしている。 b. 第一次世界大戦の原因や性格、ロシア革命の世界史的な意義と影響、ヴェルサイユ・ワシントン両体制のもとらした緊張関係や矛盾を多角的に考察し、追究し、文章にまとめる。ファシズムという運動を20世紀における大衆社会の出現や第二次世界大戦の持っていた複合的で複雑な性格を戦後の国際社会の方向性と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c. バルカン諸国や第一次世界大戦の戦場となった地域や領土拡大をあらわす地図、新兵器などの図版、ドイツ国境を中心としたヨーロッパの地図、1920～30年代の中国、第一次世界大戦後の西アジアの地図、図版・写真などを適切に活用している。世界恐慌中の工業生産の推移を示す諸資料、日中戦争の地図、図版・写真、ヨーロッパ戦線や太平洋戦争の地図・写真などを適切に活用している。 d. 第一次世界大戦の帝国主義諸国間の覇権争いとしての性格、経過、ロシア革命の展開と、ソ連邦の成立過程、ヴェルサイユ・ワシントン両体制の問題点と、アメリカの繁栄、ソ連邦の社会主義建設といった欧米諸国の動向に関して、基本的な知識を身につけている。中国における民族運動の高揚、ガンディーを中心としたインドの民族運動、世界恐慌の影響と欧米諸国の対応、ファシズム諸国の攻勢やソ連邦の動向、第二次世界大戦におけるヨーロッパから太平洋に至る戦場の広域化、核兵器の使用といった残虐行為など、戦争の惨禍に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国		○	○	○	○			
		3 アジア・アフリカ地域の民族運動		○	○	○	○			
		4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略		○	○	○	○			
		5 第二次世界大戦		○	○	○	○			
		9	第15章冷戦と第三世界の独立	1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	○	○	○	○	a. 米・ソ冷戦構造、アジア諸地域の独立、朝鮮戦争後、核兵器開発競争や平和共存政策といった国際的な緊張、融和や経済的自立の困難さや開発独裁体制の成立、中国の混乱などや第三世界諸国における危機、ベトナム戦争やチェコスロヴァキア軍事介入、米・ソ両大国の動揺、親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策を比較しながら関心を持って学習しようとしている。 b. 親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策を比較しながら考察し、文章にまとめる。西欧や日本の経済的な復興や高度成長を、戦後の国際政治に与えた影響と関連づけて考察し、アジア・アフリカ新興独立諸国による第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策を、冷戦の緩和と関連づけて考察し、文章にまとめる。冷戦の終結をゴルバチョフによるソ連の改革と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c. ドイツとベルリンの分割図、第二次世界大戦後のアジア諸地域の独立を示す地図や図版、朝鮮戦争の地図、冷戦時代の諸同盟や先進国の経済成長率などの諸資料、図版・写真を適切に活用している。 d. 国際連合を柱とした戦後の世界秩序の形成、ヨーロッパの東西分断と冷戦体制の確立、朝鮮戦争後の「雪どけ」や平和共存への試み、アメリカに続く西欧や日本の復興と経済成長に関する基本的な知識を身につけている。アジア＝アフリカ会議や非同盟諸国会議などに見られる、第三世界の連帯の動き、及びオイル＝ショックなど戦後政治の転換期の動向や冷戦終結への取り組みに関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
		2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興		○	○	○	○			
		3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り		○	○	○	○			
		4 石油危機と世界経済の再編		○	○	○	○			
9	第16章現在の世界	1 社会主義世界の変容とグローバル化の進展	○	○	○	○	a. 情報技術革命によって市場経済の世界化がより進展し、地球規模での相互依存が高まったこと、ラテンアメリカやアジアの途上国における強権支配の後退と民主化の進展について関心を持って学習しようとしている。新たな地域紛争の頻発、経済格差や深刻化する貧困問題など、現代の諸地域世界の情勢や高度な科学技術をもたらした生活の変化と、それに伴う諸問題について、関心をもって学習しようとしている。 b. 東欧社会主義圏の解体とソ連邦の分裂、消滅について、その歴史的意味を多角的に考察し、文章にまとめる。中国・ベトナムで進む市場開放と工業化の進展、湾岸戦争とアフガニスタンやイラクに対する対テロ戦争における国際連合の行動の差異から、新たな国際秩序の在り方を考察し、文章にまとめる。 c. 独立国家共同体の地図、ヨーロッパ統合の歩み、国内総生産による世界地図等の諸資料や写真や天安門事件の写真などを適切に活用している。PKO派遣等の資料や写真、インターネットや新聞などから国際社会の課題に関する情報を収集し、活用している。 d. 東欧社会主義諸国の改革、ソ連邦の解体過程、EUやNAFTAなど先進経済地域の統合化の動き、ラテンアメリカやアジアの途上国で進展した民主化の過程とアジア社会主義諸国の経済開放政策やその変容に関する基本的な知識を身につけている。東欧やロシア、中東からアジアにかけて多発する地域紛争、アフリカの民主化と貧困問題、対テロ戦争と紛争解決や軍縮の試みに関する基本的な知識を身につけている。科学の実用化に伴う生活や環境の変化、現代文化の思想的な枠組み、現代文明による地球規模での危機や新しい模索に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度		
2 途上国の民主化と独裁政権の動揺		○	○	○	○					
3 地域紛争の激化と深刻化する貧困		○	○	○	○					
4 現代文明の諸特徴		○	○	○	○					
合計時数(55分授業)		128								